

## 生涯学習と福祉教育

福祉教育研究普及校のとりくみ

志 田 利

### 一、はじめに

深山先生は本学仏教学部に教育のジャンルをはじめて根付かせてくださった。仏教学を学ぶものいかに教育の視点を加えていくかに腐心された。本号はこの深山先生のご功勞をたたえる記念号である。およばずながら教育にかかわる実践体験をもとにした福祉教育のとりくみ、そして教育、特に生涯学習との接点について思うところを研究ノートとして記し先生の恩にむくいるしるしとしたい。

### 二、福祉、教育、そして宗教

教育の分野で福祉教育のとりくみを願って教育委員会等との交渉をすすめるなかで、教育と福祉の接点の多いことを気づかされたのは昭和四〇年のころである。県民生部に属する立場でいかにして福祉の心、他人のことにもおもう

をよせることのできる人間性を豊かにできるか、まずは教育の分野から、と考えて福祉教育をとめざしたときだった。福祉といえは経済的にめぐまれない人々に社会的にささえる施策のことと考えられていた時である。この時に行動をおこし考えさせられたのが前段の教育との接点、特に社会教育というより生涯学習がさげればはじめたばかりのころであり福祉の分野との共通点の多いこと、又学校教育の情の面の教育にはともにささえあつて生きることをめざす福祉の考えはまさにぴったりの要素とも考えられた。さらにいえば両者とも人間相手の仕事である点で共通項がある、と指摘することもできるのである。

公共性の高いことの故をもつて民法上の特殊法人として税法上の恩典を認められているのは、社会福祉法人、学校法人、さらに宗教法人、医療法人である。いずれも人間相手の役割をになう分野である。とくに福祉、教育、宗教の法人を重ねあわせて運営している宗教を母体とする事業体の存在もこれらの共通項の多いことを示しているといえよう。

ふりかえつてかんがえてみればこれらのいずれかがかつては寺の事業の範囲にあつた。教育は寺子屋からはじまつた。義務教育が明治期にいち早く全国に広がり、世界でも高いレベルの識字率をあげたのも寺子屋で学ぶ風習が庶民のなかにも定着していたからである、と言つてよいだろう。

福祉の領域でも、最も多く全国的に設置されている保育所は、寺の境内でひらかれた農繁期託児所が始まりだった。深山先生のめざされた仏教学部に教育の分野の定着をはかろうとされたことは新しい時代にふさわしい寺の役割をもとめたものではなかつたのか。寺子屋的役割を今の時代の庶民のニーズにこたえてとりくむことと推測している。福祉の分野の実践体験を長くもっている筆者もまたこうした願いをベースに宗教と福祉の接点をもとめて学生とともに

に学びあっている。深山先生を師表としてのとりくみのおもいでもある。

### 三、福祉教育の視点

いま奉仕活動を学校教育のなかに義務化をはかることの是非についてはぎやかに論じられている。義務化はともかくとしてボランティア体験を若い世代のうちにもつことは有意義である、とする声はおおかたのものであるようである。

ゆとりの教育、そして心の教育などと偏差値重視の反省として方向転換をもとめる論は高い。その具体的な対応策として学校内外での社会体験をもたせていこうというところみはずで現場でとりくんでいるのが実情である。

こうした社会の変わりようをみるとき、かつて福祉教育を教育のなかにとりこんでほしいとはたらきかけをしたときのこととくらべあわせ正に隔世の感である。

戦後の知育に重点をおいて画一的なカリキュラムで全国統一した教育をすすめてきたなかで「人間」を忘れてしまいがちな不安はおおくの人々の心にまきおこっている。それが具体的な声となり、動きとなったのがさきにあげた今日の姿であろうと思うのである。しかしそれにしても変化である。

### 四、福祉教育のとりくみ

筆者が福祉教育をとりあげようと考えたのは、静岡県民生部で企画部門担当となり新規事業のとりくみを考える立場にあてられたときである。

そのとき学校教育のなかで福祉教育にとりくんでおられる先例は神奈川県事例のみであった。尊敬する一番ヶ瀬康子先生がかかわられたとうかがっていた。非行の多発している地域の学校を指定校とし地域の協力をえてその解決にとりくんでいる、などの活動例を耳にしていたのだった。こうした先例を参考にして教育の場でのとりくみ、福祉の心、おもしろいやりどころを生徒のときにうえつけていただくことはできないものか、という発想が原点である。

（1）目標設定

学校教育、そして社会教育の分野で社会体験をとりにくむころみはどうかと教育委員会の担当指導主事との接触をはじめた。なかなかのあつい壁であった。まず民生部のなかでも、直接的な住民サービスでもないものをなんでもいまやる必要があるのか、という反応だった。ようやく老人福祉法の制定を見るところであり、おとしよりのための施策、老人ホームの建設促進がさげはじめた時期だった。ハコものも大事だが住民の意識のたかまりも大事だ、と説いたものだった。面白いと応じてくれたのがときの担当課長大石正也さんだった。福祉の心をそだてることは大事なことだ。しかし教育は教育委員会の所管、先方の協力がえらるならばとりあげてみよう、という裁断である。

そこで正式に教育委員会との交渉に入るのであるが、学校の外に生徒がでゆくことはいかがなものか、飲酒などの風潮になじむことになったり、問題がおきれば責任は校長にくる。キャンパスのなかで学校カリキュラムにしたがい真面目にやっていたらよいではないか、という反応であった。

こうしたときにこちら側の説明に用いたのは次のような体験談であった。

（体験談1）老人ホーム長のなげき

伊豆長岡町に長岡寮湯の家（注一）という養護老人ホームがある。この施設を創設されたのは渡辺鋭さんという旅館業をいとなむ社長さんである。

戦後の混乱のなかで老人も障害者も孤児もまとめて面倒みる形の福祉施設、富士育児養老院（注二）が富士市にあった。この状況を視察にみえたGHQの専門官が社会の貢献者であるおとしりをわけて収容する施設を早急に用意して移住させよとのきびしい命令を発した。

焼け野原から立ち直るのに懸命だったとき新たな施設を作るゆとりはない。しかしGHQの至上命令である。どうするか、と関係者が頭を悩ましているときに、私の旅館を解放しようとして申し出たのが渡辺さんだった。大陸の戦争体験をもつ渡辺さんは生き残って帰国できた身、亡き戦友への供養のためにも、親の世代のための奉仕を、と考えられたのである。そして旅館を解放し老人と畑をたがやしヤミ米をもとめての共同生活を続けていったのだった。近隣旅館の下肥をいただいて夜中に大八車につんでいき畑にほどこしたといった苦労を重ねた。そののち共同募金の配分金をいただいて今の老人ホームを建設することができた。そしてあらためて旅館を再開したときに全国社会福祉協議会から福祉施設職員研修施設として指定をいただいて全国から福祉関係者がいつも宿をもとめるようになった。たいへんな繁盛に繋がったのである。

全国でもはじめての温泉つき老人ホームと日本中に話題になった施設で渡辺さんが語られたことはのなかにこんななげきがあった。

「おとしよりは天国にきたようだ、と喜んでくれる、よいことをしたと満足していた、がたずねてくる若い世代がこんな良いところがあるのなら、うちの親たちも手がかかるようになったらここでお世話してもらえばよい、

楽になれる、と語るのをきいて愕然とした。ただでさえ老人の世話などしたくないという勝手な個人主義の時代だ、ホームをつくることで親孝行のよき風習をこわしていく力になってしまふ、これは困ったことだ」とである。

渡辺さん達が全国の老人ホーム施設長会を結成し、せめて年に一日老人の日を設けて敬老の精神をたかめようとして全国運動を展開された頃だった。これが今日の国民祝日に加えられた敬老の日はじまりなのである。

この渡辺さんのなげきをどうにか教育の領域で教育者の視点でとりあげることにはならないものか、という説明をしたのである。

（体験談2）障害をもつ子の福祉

特殊教育がまだ義務化される前のことである。就業免除という形でちまたで教育の機会もえられずに行き止まるしかなかった知的障害児達、この子らに教育と生活訓練の場をつくろうとたちあがった方に民生、児童委員の大野虎雄さんがおられる。協力する人々が多くあらわれて建設資金はどうかできた、が土地を提供する人々がいない。いても近隣の人の反応は冷たい。うちの娘にわるさしたらだれが責任を取ってくれるのか、と。

つくるのは賛成だ。金もだそう、しかしうちのちかづくのは反対だ、土地の評価が下がる、という声、いずれもきびしいものだった。やむなく人家の少ない箱根の山中につくることになったのが見晴学園（注3）である。ここに知的障害児がつよい畑をつくり花を育て地域の人々にわけてあげる。街道筋を定期清掃する、といった活動をつづけていくなかで人々の眼がかわった。ちかくの学校との交流も始まった。共同生活をするなかで普

通学級の子らが変化をみせる。「同じ人間だ」「おれたちよりもやさしい心をもっている」「人間はみんな同じなんだ」と感想文を書くようになった。学園の子らも誇りをもって生活をたのしむようになっていく。これを見て大野さんは「子供のときからいろんな体験をもつことが大きく育ちに貢献する。とくにみんなからバカにされている子らは実は立派な能力をもっているんだ」と若い同世代のうちに体験をとおして学ぶことは人間形成にプラスするはずだよ」と語られた。

大野さんのはのちに、県民生、児童委員協議会の会長になられたとき「子供の環境をよくする運動」を提唱された。この大野さんの願いを学校教育のなかでうけとめていくことはできないものか、と説いたのである。

こうしたことを再三話し合うなかで福祉の現場からの教育への期待をのべつづけたのだった。

社会教育の分野でも大人にも子供の世代との共通の場、ふれあいの機会そして共通体験を公民館といった活動のなかに組み入れられないものか、と世代交流などはたらきを例にとりあげをもとめていった。

## (2) 理解をえて実現へ

こんなつまかさねをしていくなかでときの担当課長の相佐さんが関心を示してくださいました。

そして教育長の諏訪さんまで話したが、協力がしようではないか、という方向にうごきがひろがりたかまったのだった。ここで具体的なものになった。民生部内でもあたらしい目玉事業として予算要求しようと思つていく。

財政局も真剣に考えてくださり陽の目をみるようになった。最終案ではまず学校教育に定着をはかることから始めようということになり次のような柱がたてられた。

①方法Ⅱモデル校を指定してその成果をまわりの学校にひろがることを期待していく。

②活動費Ⅱ一校あたり年10万円これは当時としては破格のものだった。消費生活、環境問題等の研究校をとりくむ場合の補助金は大体2万円〜3万円というものだった。これは学校全体でとりくんでいただくいわば全校あげての精神運動のようなものだ、という主張がみとめられての予算づけである。

かかわってくださった指導主事の先生はこれだけの金額ならうけてくれる校長先生もあらわれるよとよろこんでくださった。

③学校数Ⅱ目標は10校、小中高校から協力校をつのるというものだった。

④期間Ⅱ指定期間は3年とする。

ア、最初はまずムードづくり、関心のたかまりを学校諸行事、各教科のなかで意図的にとりくむことをめざす。

イ、次に学校内に生徒主体の推進体制をつくりあげる、なかまとのたすけあい運動を中心に具体的活動をひろげていく

ウ、さらに発展した形で校内の実践から地域の活動につないでいく、父母もふくむ地域の人々との共同活動に発展

させ定着をはかる。

以上のような内容におちついたのだった。

(3) 学校へのはたらきかけ

こんな流れを考えて要項をつくり関係機関に理解をもとめ、予算内示とともに内々の協力校として目標をさだめた校長先生と接触に入った。指導主事の先生に同行いただいたのアタックだったがなかなかの難関だった。

知り合いでもあった進学校で著名な高校長をたずねたときの反応である。「東大に何人入れるかで校長の評価がき



まる学校なんだ。福祉なんて考える間があったら受験勉強をやってくれとPTAに叱られる。校長はくびだとなつては困る。趣旨はよくわかるけど本校では無理だな」というものである。

ある中学校では「校長としてはわかるけど教員がその気になつてくれないとやれない」といわれて、授業時間の終わる夕方にあらためて訪問、説明にあつた。反論がでる。「福祉は国の仕事だと憲法で示している。教育の世界にしりをもつてくるのはおかしい」という声が最も大きいものであつた。「福祉の施策は国がおこなつても効果をあげるには住民のささえあいがあつてこそだ。福祉の対象にならないようにするために子供のとときからたすけあいの心を持ち、学友や地域の人と協力しあう体験をもつことは教育の効果をたしかめるにも有意義なものではないか」こんなことを懸命に説明し相手の理解を持ったことを記憶している。こんなくりかえしのなかで結果として8枚の承諾がえられた。義務教育ではJRC（注4）の活動が根をおろしている学校が、前向きに引き受けてくれた。クラブ活動のJRCを全校にひろげる形できるとりくむという方向ではどうかと言ふ校長の指針がだされた。普及校としての活動のなかでめざめた生徒たちが自発的にJRCに参加することを期待する、という表現であつた。高校においては私立学校が積極的であり「本学の教育目標にかさなるし、建学精神の表現にもなりうる人が多いからやってみましょう」という答えをいただくことができたのである。

(4) 指定校うごきだす

予算案が県議会で承認され具体的に民生部の事業として「福祉研究普及校の指定事業」がスタートした。私はひきつづき推進役の担当者となつた。

教育委員会の協力をいただいて各教育事務所に担当指導主事を配置するように決定して下さり、各校を訪問し新年

度からのこの事業の展開についての体制が整備された。他業務と兼務の仕事分担ではあったが、新しいとりくみであるのでよい方向にすすむ事を願って、担当として情報発信者となり努力を続けて行った。

ア、福祉校だより

まず「福祉校だより」をがり版ではじめた。学校から担当への照会事項のうけこたえ、学校訪問したおりの話し合いの内容・校長や担当教員の言葉を他校にもそのままつたえることで新しいとりくみに共通なベースをつくることにプラスになっていくようになる。

イ、福祉校連絡会

次に「福祉校連絡会」を開いた。担当どうしの意見交換の場をもうけたことは、非常に効果をもたらした。各校においていただいた研究主任の先生の意欲が盛んに高まり、校内でも連動するものがあつた。これは良い成果をあげる、との期待をもたせえるものであつた。

ウ、生徒のうごき

夏休みを利用して生徒会代表者たち合宿研修を、指定校の関係者をも含めて開催した。各校内での実際の体験を発表し交流することにより、さらにやる気の高まりをみせる若いエネルギーのみごとさを感じさせられる。こんな機会を利用して職場の同輩を誘い一緒に参加した。そのことでこの事業にたいする理解を広めてもらえる効果ともなつた。

エ、福祉校協議会

福祉校協議会では各校長と研究主任、県教委担当課長も加わつての論議のなかで、生徒が意欲をもち具体的な

とりくみをするなかで「父兄や地域の人々の理解と関心が高まるという相乗作用がある」という報告がだされて大いに評価がなされた。

#### オ、研究発表

各校の実践を公開すべく研究発表会を開催したところ、たくさんの見学者があつた。指定校の地域の人や福祉関係者の姿もみられた。生徒達のいきいきとした活動報告が、他校の教員にも大きな刺激となる様子を見ることのできた。そのなかで話題としてとりあげられた活動例を紹介する。

#### (活動例1) 高齢者とのふれあい

学校の運動会でこれまで招待席にすわってもらう地域のおとしよりに、一緒に競技に参加してもらつた。生徒の素朴な発案であつた。二人三脚で一緒におじいちゃんと手をつないで走つた子は、おじいちゃんの手はしわだらけだが大きくてあつたかい、仕事をしてきた手だと感動している。この交流を通して、一人暮らしのおとしよりの自宅に手紙をかいたり、お宅を訪問したりという活動につながつていった。おとしよりと同居していない家庭の子にはよい体験になつたとかんがえられる。

#### (活動例2) バス停の清掃

通学途中のバス停を生徒が掃除する計画が具体化した。生徒達が懸命にきれいにするのをみて大人たちもゴミをださないようになり街がきれいになつていった。お礼にと地域のおとしよりが学校の花壇づくりに協力してくれて、校庭がきれいにみごとな花々でかざられた。

などなど生徒の活動が地域をもかえるという具体的な成果が発表されていくようになるのである。

（5）教育委員会に事業移管

こうして指定校を4年間おねがいするなかで学校側の評価が上がり、教育委員会側自らの事業としてとりくむ前向きさがみられるようになる。予算づけも教育委員会に移管されることになり、発案者としての筆者の民生部での任務も終わり、次ぎのポジションにかわることになるのである。

（6）全国的な事業へ

やがて、こうした事業が国の段階でとりあげられるようになったのは、静岡での実践から一〇目年のことである。各県単位でのとりくみが、次々とはじまり成果をあげていくという実績があつてのことである。

静岡県では、県社会福祉協議会が推進役をにない「福祉教育推進会議」のもと活動をすすめている。現在496校と県内学校数のほぼ50%の指定校が誕生し、次第に全県下へと普及をみせている。市町村社会福祉協議会が地域福祉活動計画のなかに福祉教育推進計画をたてる流れが強まりおよそ30%の市町村で実現している。それぞれの地域内の指定校との連携をとりながら、地域住民の参加をめざして具体的活動を展開するところまできている。大変な発展であり、「福祉教育」活動が学校教育をくみこんだ生涯学習の視点でとりあげられることになったのである。

この当時に、学んでいた生徒たちのなかから、長じて福祉や教育への専門職をもとめて進路をえらんだ人々が多くあつたことを知り、ひとつの動機づけになりえたかと自負するものである。

五、地域へのひろがり

静岡県内各市町村社会福祉協議会でとりくんでいる福祉教育推進計画の例をその活動推進役にあたられる県社会福

社協議会古井慶治氏のまとめ（注5）からあげてみたい。

事例1 清水市のとりくみ

清水市は人口23万人、港湾都市で障害者福祉都市宣言を行っている。

福祉教育計画の概要

（1）理念 子供もおとしよりも障害のある人も住民一人ひとりが安心して健やかに暮らしていけるように「住民の参加と支えあいによる福祉のまちづくり」をすすめる

（2）目標

- ①住民の社会福祉への理解をすすめるよう
- ②住民の社会福祉活動への主体的参加をすすめるよう
- ③公私協働のネットワークをすすめるよう

（3）内容

- ①福祉教育実践校事業の充実
  - ・福祉教育実践校事業の積極的推進
  - ・福祉教育実践校担当教諭連絡会の充実
  - ・福祉教育実践校の活動プログラムの開発
- ・地区社協と地区内学校の連携強化
- ・福祉教育を考える集いの開催

生涯学習と福祉教育（志田）

生涯学習と福祉教育（志田）

②体験福祉学習の充実

- ・児童生徒に対する福祉体験事業の充実
- ・世代別福祉教育プログラムの開発
- ・福祉課題別学習会プログラムの開発

③他機関の福祉教育活動の支援

- ・地区社協の福祉教育活動の支援
- ・公民館と連携した福祉教育活動の推進
- ・企業の実施する福祉教育活動の支援

④地域における福祉教育活動

- ・広報啓発活動の充実
- ・ボランティア活動の推進
- ・当事者を支える活動の推進

（以下 略）

事例2 掛川市のとりくみ

掛川市は人口8万人、生涯学習都市宣言をおこなっている。大日本報徳者の本部所在、福祉教育計画の概要

（1）理念

すべての掛川市民は、個人として尊重され、一人ひとりが福祉の主役として、お互いが支え合ってより多くの幸せを実感し、将来にわたって安心してくらす地域社会を築いていく。

(2) 目標

①福祉風土の醸成

②住民の福祉活動への参画

③公私協働のネットワーク

④支援を必要とする人への活動強化

(3) 内容

①福祉教育実践校事業強化

・福祉教育実践校指定

・実践校連絡会

・教師に対する研修会開催

②学生に対する福祉教育の充実

・小、中、高福祉体験スクールの実地

・高校生ワークキャンプの実施

・高校生ボランティアのつどいの実施

・高校生福祉映画会の実施

生涯学習と福祉教育(志田)

- ③ 青年層に対する福祉教育の充実
  - ・ 青年ボランティア研修会の実施
- ④ 大人に対する福祉教育の充実
  - ・ 福祉教育セミナーの実施
- ⑤ 高齢者に対する福祉教育の充実
  - ・ 高齢者生きがい講演会の実施
- ⑥ 企業人に対する福祉教育の実施
  - ・ 企業の社会貢献セミナーの実施
- ⑦ 地域における福祉教育の実施
  - ・ 福祉情報の充実整備
  - ・ 一人一ボランティアの実現
  - ・ ネットワーク強化による福祉サービスの充実
  - ・ 支援を必要とする人に対する活動強化

（以下略）

このように市町村ごとにそれぞれ地域の特性に応じた福祉教育の推進策をたて実践する時代になったのである。筆者が福祉教育を提唱したころはボランティアという言葉もまだマスコミもとりあげなかった時だった。その当時にくらべ大変な変わりようである、とおもいしらされている。



## 6 福祉教育の展開

学校教育のなかで福祉教育のモデル校を設け生徒の活動をとおして地域へひろがり期待した実践体験をのべた。それが今日では全国での活動にひろがっていること、さらには地域住民をもまきこんだ生涯学習活動に展開をみているのである。

そしていま教育改革国民会議などの場で奉仕活動の定着をはかるため義務化にしようとの意見もでてくる時代となっている。

福祉教育と奉仕活動さらにボランティア活動、それぞれに興味あいの違いはあるが人間としてなにより大事な生命へのおそれや他人との共生をめざす点では共通項が多い。

また文部省の道徳教育指導要項のなかでも「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い豊かな心をはぐくむ」ことをめざしている。また「身近にいる幼い人や高齢者にあたたかい心で接し親切にする」といった具体的目標をかかげている。

こうした活動やとりくみのいずれも今うすれているとされる人間を大事にする考え方をひろげていきたいとの願いにおいて共通のものがあるのではないか。人間学という言葉が市民権をえている時代のなかでヒューマンサービスというべき分野があらためて評価されはじめていることも重ねてみることができよう。教育も福祉もそして宗教もこの分野に入る。人間相手の公共性の高い仕事」という形でいくことができるのではないか。

深山先生が宗教と教育の接点をひろげることに関心をもちいられた。教育をめざすものには己の人格のたかまりを

とめるなかで宗教を大事にすること。また宗教に生きようとするものには人の師表となりうる条件をもとめる。人間を相手にする仕事に生きるためには幅広い学際的な教養がもとめられると説かれていた。まさに人間学の分野へのひろがりをもとめておられたのでは、と推察される。

## 7 生涯学習との接点

以上にあげた人間に関心をもって学ぶという視点はまさに生涯学習そのものであるといえよう。さきに福祉教育の必要をとく話題としてあげた渡辺鋭さんはしにせの旅館の御曹司だった。大陸でのきびしい戦線を生き抜いてきてふるさとに帰ることができたとき、なにか世のため人のためになることを、と考えられていたことが薄幸のおとしよりのお世話をする決心につながったのである。

また大野虎雄さんは徳川家の旧幕臣、主とともに駿府に腰をおろされた旗本を祖父にもっておられた。資産をもとに生活できる身であつたが闘病の長い時間をもたれた体験から民生、児童委員の職務を天職とこころえ社会貢献の生涯をおえられた方である。そして街角で学校にもいかれずたむろしている障害をもつ子を見て、この子らのためになんとか教育と生活訓練の場をと考え行動に入られたのだった。

この両先人のおもいと行動は福祉事業の先駆的なとりくみである。と同時に生涯学習の理念を具体的活動に活かされた実践の人でもあるといえよう。お二人の信仰についてうかがう機会はもちえなかつたが、日本文化のなかでつちかわれたたしかな信念の持ち主であつたことはたしかである。わがことよりも他人のことを大事に考え行動する。まさにこれこそが仏の教えの実践の姿ともいえよう。こうしたおこないがあたりまえである社会、すくなくともそのこ

とに価値をみとめ評価する社会でありたいと願うものである。その方向に少しでも貢献できるなら人間の生き方として最も満足できるものであるといいたい。

さらには寺こそ地域の教育、文化、福祉のセンターであってほしい。生涯学習として住民が社会貢献活動にとりくむ拠点であってほしいという願望をあげさせていただきたい。

## 8 おわりに

ささやかな体験をもとに福祉に生きてきた一人として宗教とのかかわりをあらためて考えてみたいと考えている。人間学といった視点からみつけられる多くの共通項をとりだしてくみあわせてみたい、などと思っているところである。どうかおよみいただいた方のご批判、ご教示をいただきたいと願ってこの研究ノートをしたためさせていただいた。

いうまでもなく福祉教育にもいくつかの分野がある。

福祉の専門職員を養成する福祉教育がその一つであり、全国にたくさんの方の福祉系学部を有する大学や専門学校が開設されている。

さらに学校教育のなかでの福祉体験やボランティア活動のとりくみもふくめ全国的に福祉教育が展開されている。その教育にあたる教職員を中心とする学会まで誕生している昨今である。さらには生涯学習、地域住民を対象としてすすめられる社会活動のはたらき、また社会福祉協議会を中心に展開されてきたまさに地域ぐるみの社会福祉教育活動もさきあげたようにめざましいものもある。

もう一つ、それぞれの専門分野をめざして教育にあたる分野でも福祉的視点を教養としてくみこみ、よりよい人間性を深めるための一助とすることを取りあげる動きである。本学仏教学部のなかでもそのとりくみがはじめられているところである。また社会福祉法の制定により各市町村ごとに住民参加による地域福祉計画をたてることが大きな目標とされる。住民の意識向上をはかるための福祉教育が課題となるのである。

こうあげてみると福祉はいまや国民のなかの一部の貧しい人々のための施策という時点からすすんで住民一人ひとりの生活をささえゆたかなものにするための策と変わってきているのである。介護保険法もまたそのながれのなかで成立している。とすれば住民がみずからの問題として考えその推進にあたる具体的活動がもとめられている、そのことが福祉教育の重要性を示しているといえよう。

まさに生涯学習の視点での福祉教育、さらには豊かな地域社会づくりのための福祉教育といった見方でさらなるとりくみがもとめられる時がきていると考えるのである。

(注)

1 長岡寮湯の家。静岡県田方郡伊豆長岡町一一五七一―に所在

昭和二十七年四月一日開設

社会福祉法人長岡寮湯の家の経営

2 富士育児養老院。現在は児童養護施設ひまわり園、富士市今泉二二二〇に所在

明治三十六年六月十日開設

社会福祉法人美容会経営

- 3 見晴学園。知的障害児施設で、三島市エビノ木四七四五所在  
昭和三十一年四月一日開設  
社会福祉法人函翠会経営
- 4 J.R.C。日本赤十字社が提唱している青少年青十字活動  
国際協力と博愛の精神をめざし学校教育の部活としてとりくんでいる。
- 5 福祉教育の理念と実践  
阪野貢編 相川書房刊 内第9章福祉教育推進計画の現状と課題 古井慶治筆